

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	290100049		
法人名	社会福祉法人桐紫苑		
事業所名	グループホーム あべの		
所在地 (電話番号)	〒030-0943 青森県青森市幸畑阿部野163-112 (電 話) 017-738-6700		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 1月 15日	評価確定日	平成 20年 4月 16日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 12月 11日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		17	人
職員数	12 人	常勤 11人, 非常勤		1人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,500 ~ 21,000 円	その他の経費(月額)	冬期 6,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低 61 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山谷医院、ミナトヤ歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史ある八甲田雪中行軍隊員が眠る幸畑墓苑が近くにあり、八甲田への入り口で自然豊かな立地条件に立てられています。ホームの近くには保育園、幸畑団地もあり誕生会や敬老会、クリスマス会を通しての交流、地域の方が野菜を持ってくるなどの地域交流も盛んに行われています。母体施設が老人保健施設で、食事の献立も管理栄養士が作成しその上に、ホーム独自のメニューや工夫がされています。看護師が一人常勤し、健康管理していて、介護との連携のもと入居者の支援をしています。管理者はじめ、スタッフは個人個人が笑顔で生活できるような支援のために頑張っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての評価でしたので改善項目はありません。ただし、理念を掲げているが、サービス提供される側もする側も、迷ったときに、よりどころとなるような簡単な言葉での具体的理念作成を期待します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員みんなで外部評価の意義を理解し、自己評価をすることで気づきにつながっているため、今後のサービスの質の向上につながることを期待します。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設して一年のため、運営推進会議を一度しか行っていないが、生活保護担当者や市役所内にある介護保険チームとの情報を取り合い、老人会会長、民生委員、入居者家族、入居者本人の参加を得て実施している。出席者からの意見を聞きながらサービスの質向上に努めています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	面会時に入居者の様子を報告したり、面会の無い御家族へは、手紙や電話でお知らせし、意見を引き出すようにしています。また意見箱の設置もしています。今後は、現金を管理している入居者の御家族へ、金銭の出し入れに関係なく定期的な報告をされることを望みます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	すぐ近くには団地、保育園があり誕生会や敬老会、クリスマス会等には地域の方々を招き地域交流を行っています。また野菜を持ってくる、パンフレット配布のとき一緒に廻ってくれたりなど良好な関係が続いています。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を掲げそれを全職員で携帯し取り組んでいるが、地域密着型サービスとしての理念が具体化されていない。	○	地域密着型サービスとしての理念を再度全職員で話し合い、理念をより具体的、かつ明確にすることで、貴グループホームの目指す方向性を確立し発展することを期待します。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を携帯したり、ミーティングの機会などに共有したりしているが、内容が抽象的なままで、具体的な取り組みに反映されていない。	○	再度全職員で話し合い、理念をより具体的、かつ明確にすることで職員のサービスの統一また、入居者や御家族へのより良いサービスにつながることを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	4	○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域住民は気軽に行き来したり、また野菜を持って来てくれたりして良好な関係を築いている。またパンフレットを配る時にもグループホームへの理解を示し、一緒に配布してくれるなど協力的である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価であり、職員は意義を理解し自己評価を作り上げている。そして職員の気付きにつながっている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設し日が浅いため、運営推進会議がまだ1回だけだが、老人会会長、民生委員、御家族、入居者が参加し行われ、意見を頂きサービス向上に努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護担当者や市役所内にある介護保険チームと運営等について連絡を取り合ったり、訪問があった際、情報提供を行ったりと連携が図られている。運営推進会議にも参加されている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が職員に対し権利擁護の説明をし、制度の理解を深めているようだが、口頭だけに留まっている。	○	制度についてのパンフレットなどを使用し確認することで、より全職員で理解を深められていくことを期待します。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があるごとに口頭では確認を取り合っているが高齢者虐待防止関連法の内容までは理解がされていない。	○	再度高齢者虐待防止関連法についての内容を確認し共通の理解を図られることを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅訪問や見学の際、契約について理解できるよう十分に説明している。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時入居者の様子を細かく報告したり、来れない御家族には電話や手紙で現在の様子を報告している。ただし金銭面の報告は不定期である。	○	金銭管理されている入居者の残金の有無に関わらず御家族の安心につながるよう定期的な報告を期待します。
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の度に、御家族に意見等聞くように努め、また運営推進会議でも意見を求め運営に反映されている。また意見箱を設置している。		
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の際、入居者がダメージを受けないよう辞めることは伝えないようにしている。また新しい職員が配置の際は、慣れた職員が数日付き添い入居者の混乱を防いでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修への参加を促したり、研修のお知らせを閲覧できるようにし職員の希望に応じているが、職員の公休と研修会が重なる時は、代休がなかなかとれないため、あまり積極的ではない。ただし、研修参加後は報告し理解を深めている。	○	質の確保、向上に向けた職員の育成のためにも参加できる体制を整えていかれることを望みます。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームでの交流が図られ、質の向上に向け相談し合うなど連携を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり見学に来て頂いたり、自宅訪問したりして利用者との関係作りに取り組んでいる。また入居し不安を抱えている入居者に対し、コミュニケーションを多く持ち問題解決を図り、安心して生活が送れるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が介護する一方にならないよう笑顔が引き出せるような会話をしよう気をつけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを会話から引き出そうと努力され、希望に応じて対応されている。その中で個々の入居者のペースを把握され尊重されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や御家族からの意向、また職員から意見を聞き介護計画を作成している。しかし、全職員が個々の介護計画を具体的に把握しておらず、職員の思いでサービスを提供している傾向がある。	○	計画作成後、再度全職員で確認し合い、統一したサービスの提供が個々の自立した生活が送ることにつながると考えられるため再度確認されていくことを期待します。
19	34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングされ、状態が変化した時は見直しされているが全職員に浸透していない。	○	上記同様、全職員でしっかり把握されることを期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診介助や外出支援など積極的に行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて入居前からのかかりつけ医を継続し支援されている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化に応じて医師や御家族と話し合い、ご本人にとって良い方向になるよう支援されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の記録は鍵のかかる引き出しに管理している。また入居者への言葉使いにも常日頃より気をつけ配慮されている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をその人のペースに合わせたり、また個々のペースに合わせゆっくりくつろげるよう対応されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備やテーブル拭き、下膳など役割分担が出来ており個々の入居者が力を発揮できるよう場面作りをしている。また職員は一緒に食事をし、会話を楽しんだり、食事に興味がもてるよう配慮している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が楽しめるよう時間に配慮し、また希望に応じて受診前に入浴したり、回数を増やすなど対応している。また入浴を拒否される方には時間を変えてみるなど工夫し入浴を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花が好きな方は一緒に植えたり、文化刺繍や裁縫が得意な入居者に対し道具など提供し自分らしさが発揮できるような支援をしている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて、ドライブや散歩へ出かけるなど戸外に行く支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その都度、身体拘束について話し合われているが、具体的な行為の把握が不十分である。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についてマニュアルなど作成し取り組んでいかれることを期待します。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊し外へ出ようとする入居者がいるため、事故防止のため常時鍵を掛けている。部屋のカーテンに鈴をつけるなど工夫はされている。	○	鍵をすることでの入居者へ与える弊害などが考えられるため、徘徊する入居者の行動範囲や時間帯など再度分析し対応策を検討し、鍵をかけないで過ごせる工夫を期待します。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の住民の協力を得ており、緊急時にかけつけてもらえる体制であるが、避難訓練が実施されていない。	○	災害は予想できないものであり、入居者の生命を守る上で避難訓練計画書を作成し定期的に訓練をされることを望みます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは良く、個々の入居者に合わせた食事内容にするなど工夫されている。毎食の食事量の確認、1ヶ月に1回体重測定し、減っている入居者に対し他の物を摂取してもらうなど対応されている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ノロウイルスの対応について台所に貼り紙し対策されている。また入居者に対し、うがい・手洗いの励行を促している。ただ他の感染症について対応が整備されていない。	○	感染症に対してマニュアルなど作成し、体制を整えていくことを期待します。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じることができるよう装飾されていたり、またテーブルには花を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫されている。ただ玄関に入ると食卓のテーブルでくつろいでいる入居者など全体が見えプライバシーが保たれにくい。また共用空間に休息できる場所が少ない。	○	外部者が玄関に入るとホール全体が見えるため、しきりなど環境を工夫されていくことを期待します。また高齢者にとって広い空間を移動する際一息つける場所を作られたり、共同生活の空間の中に一人になれるちょっとしたスペースなど居心地の良い空間作りを工夫されていくことを期待します。
35	80	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた椅子など持ち込み、その入居者が安心して過ごせるよう配慮されている。		

 は、重点項目。